

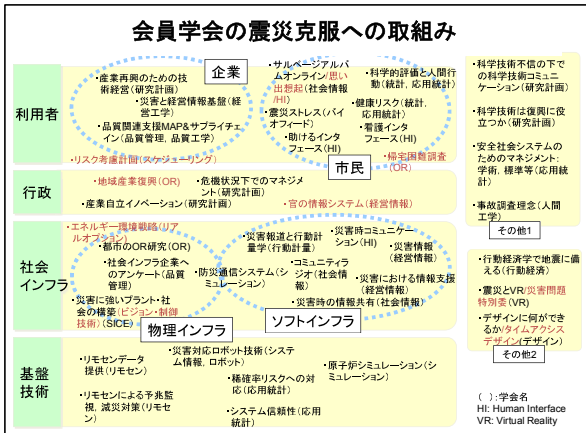
横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)



横幹連合(<http://www.trafst.jp>)は、文理にわたる37学会(2018.4現在)の連合体で、自然科学、人文・社会科学、工学などを横断的に統合する学術の推進を通して異分野の融合を促し、それにより新しい社会的価値の創出をもたらすことを目指しています。

防災・減災は、その中でも大きなテーマととらえ、文理にわたる活動を展開してきました。

東日本大震災後の防災への取り組み



文理に亘る学会連携による横幹連合「震災克服プロジェクト」(2011~2013)

WG-A	生活における社会の強靱性の強化
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の予測、速報の精度向上。災害・被害の予測精度の向上及び減災方法の確立。 我が国における過去の災害とその復興の検証。 高齢化社会に対応した先進防災救済システムの構築。 人間中心・高齢者受容のサービス提供とその構築へのユニバーサル参画のしくみの提案。 農水産工商医連携ビジネスの枠組みの構築。
WG-B	経営の高度化と強靱性の強化
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画(BCP)、災害からの産業の回復の最適な戦略や工程構築。 物流、移動、水、エネルギー、情報通信などの社会サービス基盤のシステム化と安定化。 社会インフラストラクチャの個別最適から全体最適への転換による、強靱な社会づくりの構築。 社会インフラストラクチャに関する情報共有と相互依存性の解析。
WG-C	環境保全とエネルギー供給における強靱性の強化
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> 持続性の評価法に関する枠組みの開発。 再生可能エネルギーの安定供給。 エネルギーの多様化における問題の洗い出し。そして、環境問題との整合の検討 地域における水循環システムの構築、淡水化プラントの構築など水事業の安定化。

継続しての研究活動

文理に亘る学会連携による検証と統合化、そして政策提言へ

生活と環境の共生の大震災からの復旧再生の多面的・多層的的分析とアーカイブの構築

2チームに再編しての本研究活動とその検討課題 (2015~2016)

A. 社会生活観察チーム	対象: 生活・経済活動と自然環境との共生の変遷
B. 自然環境観察チーム	対象: 大震災と復興過程での自然環境そのものの変遷

会誌「横幹」と「横幹連合コンファレンス」での活動



横幹連合会誌「**横幹**」(J-STAGEにて公開 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/trafst/-char/ja/>)での特集

- 第6巻第2号(2012)(特集「社会情報学の視点による東日本大震災からの復旧・復興」)
- 第7巻第1号(2013)(特集「震災克服調査研究—WG報告」)
- 第11巻第2号(2017)(特集「人間・社会を中心とした防災・減災への学術連携に向けて」)

主な関連解説記事

- ・東日本大震災におけるボランティア実践
- ・東日本大震災をどうとらえるか—レジリエントな社会システムを目指して—
- ・防災学術連携体の活動と横幹連合への期待
- ・防災をめぐるさまざまな知の相克—社会学からの学術連携への一視点—
- ・東日本大震災の被災と復興に見る国土の強靱化について
- ・大震災後社会における社会関係資本を考える—人口流出と孤立貧—
- ・計画科学の立場からの災害対策の評価
- ・復興まちづくりから何を学び伝えていかなければならないか—岩手県大槌町滞在の経験から—
- ・東日本大震災の被災と復興の画像アーカイブと被災市街地の時空間モデリング
- ・巨大災害時疎開シミュレーションの提案
- ・レジリエンス改善のための災害リスク評価
- ・ソフト防災に果たす防災アプリの可能性と課題
- ・地域防災対策支援プロジェクト



最近の「横幹連合会コンファレンス」での防災関連の特別セッションの開催



- 第6回(2015)・長期的な持続可能社会の実現を目指して
 - ・経営系分野からの防災・減災へのアプローチ
 - ・安全・安心な都市空間創造のための空間情報利
- 第7回(2016)・災害から真に強靱な社会とは?—防災学術連携体に参画して—
 - ・経験知を活かす防災・減災へのアプローチ
- 第8回(2017)・構造物に依存しないソフト防災の現状と可能性
 - ・望まれる持続可能な社会の実現に向けて